令和４年８月１７日

第７２次　印旛地区研究集会

進路指導部会　提案資料

研究主題

「キャリア教育の視点から実践する学校での教育活動」

～進んで考え行動する体験活動と学校生活～

第一部会　佐倉市立上志津中学校

圖齋　和美

「キャリア教育の視点から実践する学校での教育活動～進んで考え行動する力を育てる体験活動と学校生活～」

佐倉市立上志津中学校
教諭　圖齋　和美

1．研究主題　　「キャリア教育の視点から実践する学校での教育活動」
～進んで考え行動する力を育てる体験活動と学校生活～

2．主題設定の理由

キャリア教育のプログラムの多くは職業講話や職場体験、職業に関する調べ学習といった職業や仕事について直接的に学習する内容になっている。このような特別な活動はもちろん生徒の職業に対する興味・関心を喚起して、望ましい勤労観や職業観を育てるためには欠かせないものとなっている。しかし近年、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から職場体験等は実施が厳しい状況となっている。本校現３年生は、「自分達の興味のある職業についてのプレゼンテーションを行う」ということを主題にしてグループで職業調べの取り組みを行い、他の生徒に向けてその職業の魅力を伝えるプレゼンテーションを考えた。体験の形を変えての実施となったが、生徒は関心をもって活動することができていた。

何ができるようになるかを明確にして、それを指導者が生徒と共有することで、キャリア教育の視点に立った指導が可能なのではないかと考えた。

そこで本校ではキャリア教育の原点に立ち返り、全ての教育活動の中で、キャリア教育の視点から実践できるものはないか見直すことで、生徒の基礎的・汎用的能力を育て、学校における体系的・系統的なキャリア教育を推進し、日常の学校生活を充実させたいと考えた。

3．研究仮説

学校教育活動を基礎的・汎用的能力の４つの能力にわかりやすく整理して、教師も生徒も意識して活動を続ければ、将来につながる生きる力となるだろう。

基礎的・汎用的能力の４つの能力の捉え方

人間関係・社会形成能力	課題対応能力	自己理解・自己管理能力	キャリア　プランニング能力
コミュニケーション能力	**課題の発見と解決する力**	**自己理解と改善する力**	**将来を考える力**

キャリア教育校内共通目標

学校生活の様々な場面で、自分自身が取り組むべきことを見つけ、進んで考え行動できる力を身につけよう

「生きる力」を養う目指す４つの力

①コミュニケーション能力　　②課題の発見と解決する力

③自己理解と改善する力　　④将来を考える力

4．本校の実態

本校は、今年で開校５０周年を迎える歴史と伝統ある学校である。現在も地域には上志津中の卒業生が多くいて、地域の人に支えられながら学校運営が進められてきた経緯がある。御輿集会と呼ばれる地域の方々とのふれあいの場があり、中学生に地域の文化を知ってもらうイベントとして地域の大人達の温かい志を感じられる上志津ならではのものである。また、地域の要請を受けて生徒達自身も隣の敷地にある幼稚園の運動会や学区の小学生を招いた活動（上中キャンプ）、美化活動、街頭募金などの地域のボランティ

ア活動に強制的ではなく生徒が自主的・積極的に参加していた様子があった。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大によってこれらの活動が実施できなくなり、生徒の様々な地域の活動が制限されており、今後の地域とのつながりの希薄化が心配されるのと同時に、ますます生徒の成長につながる経験やキャリア教育の視点にたった活動が望まれるところである。

本年度の学校教育目標は「進んで学び、心豊かにたくましく、進んで考え行動する生徒の育成～四つの約束を大切にした、自己指導能力の涵養～」となっている。「四つの約束」とは、「1．さわやかな挨拶をする、2．時間を守る、3．人の話をよく聞く、4．進んで隅々まで清掃する」の上志津中の合言葉となっているものである。この合言葉にある行動を上志津中の生徒達は誇りをもち心がけている。挨拶を気持ちよくできる生徒がほとんどで、開始時間に遅れてくることもめったにない。全校での集合の場面では、3年生を中心に5分前に整列が完了できる。また話を聴く場面では、話し手が話の前と後の「お願いします。」「ありがとうございました。」という言葉を付け加え、聞く側もそれに応えるようにして話を聴いている。そして、清掃は無言清掃で、黙々と各自が役割を果たす。

半面、「課題を発見、解決する力」「将来を考える力」を身につけるには、課題を解決できる「学力」や「学び方」をさらに定着が必要である。本校の生徒も「学力」や「学び方」の更なる定着が望まれる。

また、リーダー層を中心とした生徒は先を見通した行動がとれているが、全体的に教師から言われたことは行動できてもそれ以上の自発的な行動は少ないと感じることが多い。集団の中で自分の感じたことについて自信をもって発言できない生徒も少なからずいる。それはコミュニケーション力、課題が何かを発見し解決する力、自分を知り改善する力、将来を考える力を培うことで変容が期待できると考える。つまり、基礎的・汎用的能力の4つの力は学校目標の言葉にあるような「進んで考え行動する」姿勢から培われていくものと考える。

5．研究内容（具体的な手立て）

【仮説手立て①】キャリア教育の視点から**各教科の「学び」を充実させる**

・日常生活・職業・将来との関連に気づかせる（学ぶ内容からアプローチ）

各教科等で学ぶ内容が「日常生活のどんなところに活用されているのか」「その知識を必要とするのはどんな職業か」「社会に出た時にどんな場面で役に立つのか」などを単元の導入やまとめの段階に加味して考えさせ、本時で学ぶ内容を実際に活用している職業人の話を聞かせたりすることで、学習内容と日常生活・職業・将来との関連付けを図る。また、教師の説話、教材や学習課題の工夫、ゲストティーチャーの協力、新聞記事や映像資料の活用などによって、「なぜ、何のために学ぶのか」「何をどのように学ぶべきなのか」ということに生徒が気づき、学習することの意義を、納得感や実感を伴って理解できるように配慮する。

・培う資質、能力、態度の視点から指導方法を工夫する（学ぶ方法からのアプローチ）

各教科等の授業における学習活動をキャリア教育で培う資質・能力・態度を育成する活動として捉え、学習活動に対する指導方法を工夫する。例えば、各教科等の学習過程において、協働で解決する学習課題を設定し、グループワークで解決させることで、『他者とつながる力』（人間形成能力）や『動く／生かす力』（課題対応能力）等の能力を培う。また、時間制限等の条件やルールを設けることで、『自己を見つめる力』（自己管理能力）を鍛える。与えられた課題を各自が指示通りこなしていく活動だけでなく、よりよい解決方法を話し合ったり、協調性をもって段取り良く進めたり、多角的な分析や考察の仕方に気づいたり、役割分担や合意形成によって解決策を生み出したりする活動によって、キャリア教

育で培いたい資質・能力・態度を高めていくようにする。

・自分との関わりを実感させる指導の工夫や魅力的な教材開発を進める

各教科等の指導に当たっては、学習内容が自分の生活や生き方と結びついているという実感を持たせるよう、課題提示やまとめを工夫する。また、郷土の魅力や大切さを実感させる教材や題材を活用するようにする。指導者自身が学習の意義や価値の自覚を深め、郷土のよさや魅力を実感した上での指導となる。

・学習スタンダードによる、「進んで考え、話し合い、学び合う学習」を継続して進める

引き続き全教科で共通して『上志津中　学習スタンダード・進んで考え、話し合い、学び合う学習』に沿って授業で実施する。

【上志津中学校　学習スタンダード】進んで考え、話し合い、学び合う学習

つかむ	学習課題を確認し、興味関心をもとう 今日の授業の流れを知り、見通しをもとう
考える	課題を解決するために、進んで考えよう
深める	互いに説明し、質問し合うことで理解を深めよう
まとめる	学習を振り返り、自分の言葉でまとめよう

数学科の授業を例に

☆始めから公式等を教えてしまうのではなく、まずは自分達の持っている知識を使って考えさせてから公式等を教えていく。

美術科の授業を例に

☆４月の最初の授業で「オリエンテーション」として最初に「なぜ美術を学習するのかな」「美術を学ぶことでどんな力を伸ばすのかな」ということを生徒達に考えさせる。
☆作品制作で終わらず、周りの人に自分の作品のコンセプトや思いをプレゼンテーションする。その後生徒全員でそれぞれの作品にどんな良さがあるかを考え（鑑賞）、投票する。
☆修学旅行の前に国宝『阿修羅像』の鑑賞をして、先人の残してくれた文化財についての良さを感じ取らせる。
☆美術家の表現することの苦悩や作品に込められた思いを考えさせながら作品を鑑賞し、美術館を起点とした地域の人々との交流について紹介する。

美術科　作品鑑賞＆投票風景

【仮説手立て②】キャリア教育の視点から**日常の学校生活を充実させる**

・活動、行動の意義や価値を自覚させる

当番活動や係活動、部活動、基本的な生活習慣の指導等において、生徒に培いたい資質・能力・態度はどのようなものか、キャリア教育の視点から見つめ直す。「何のため、誰のために、誰が、いつ行うのか。」「今行う活動や行動が自分の生活や将来の成長とどう結びついていくのか。」「なぜそれを行う必要があるのか、何をすべきなのか。」「どのようにそれをすればよいのか。」ということを考えさせ、活動・行動の意義や価値を自覚させるようにする。

給食配膳風景

部活動

【仮説手立て③】キャリア教育の視点から**学校行事を充実させる**

・自治的能力の育成を目指す

「自分達でできた」という経験を増やすためにも、生徒の手で出来ることは、生徒の手へと委譲し、生徒の活躍の場面を増やす。また、縦割りを意識した活動により、生徒から生徒へ（上級生から下級生へ）の活動の積み重ねを大切にする。（生徒総会、体育祭、合唱祭、予餞会等）

生徒総会

体育祭

学校行事別のキャリア教育の視点の重点目標とする力

生徒総会・・・コミュニケーション能力、課題の発見と解決する力、将来を考える力

体育祭・・・コミュニケーション能力、課題の発見と解決する力、自己理解と改善する力

合唱祭・・・コミュニケーション能力、課題の発見と解決する力、自己理解と改善する力

予餞会・・・コミュニケーション能力、課題の発見と解決する力、自己理解と改善する力

【仮説手立て④】キャリア教育の視点から**総合的な学習の時間を充実させる**

・体験活動や多様な生き方に関する様々な情報から自己の生き方を考える力を培う

「旅行的な行事」や「職業セミナー」(職業人に学ぶ)、「職業調べ」等の体験的な学習や３年生の自己の進路選択を通して、「活動すること」「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な役割を考えさせる。また、多様な進路や生き方に関する様々な情報を適切に活用しながら、主体的に判断して自己の進路を考えることができるように支援していく。

校外学習（マザー牧場）

職業セミナー

職業調べ発表会

進路説明会

6．成果と課題

○学校全体で取り組んできた生徒指導や学習指導、学校行事への取り組ませ方等はキャリア教育の視点につながるものがたくさんあった。これらの取り組みを継続しながら、キャリア教育の視点を意識できるようにしていけたら良いと考える。

●各教科の「学び」や日常の学校生活を充実させる部分が今回の取り組みの中で教員と生徒が意識しなけ

ればいけない点であるので、教科会議等の会議でさらに具体的な指導方法や指導内容の確認をする必要がある。

●キャリア教育の視点から学校行事を充実させるためにも、学校行事ごとに重点的に培う力を明確にして、取り組ませる。

●学力向上のために今後もさらに基礎基本の定着を中心に全校で取り組む必要がある。